

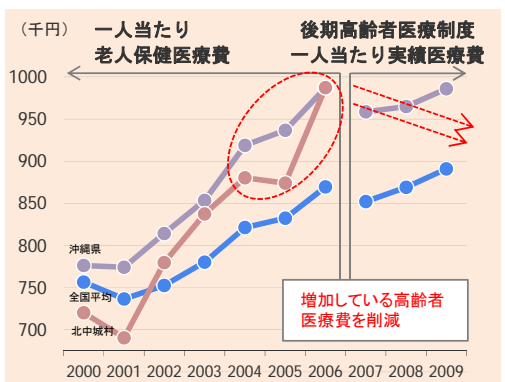
## 平成25年度特定地域再生事業費補助金事業の概要書

【 テーマ： ①ーイ 】

1 事業名	
けんこうちようじゆ すいしんじぎょう ちょうじゆにほんいち しあわ しすうにほんいち むら めざ 健康長寿のまちづくり推進事業 ～長寿日本一で幸せ指数日本一の村を目指して～	
2 事業主体の名称	
おきなわけんきたなかぐすくそん 沖縄県北中城村	
3 新規・継続	
新規	
4 補助金事業の期間	
平成25年9月～平成26年3月	
5 特定地域再生事業費補助金の種類	
特定地域再生計画策定事業	○
特定地域再生計画推進事業	
6 要望国費	
7,368,000円	
7 事業の概要	
<p>本村は、全国と同様に少子高齢化が進んでいるが、全国に先駆けて後期高齢者の人口増加が進む「少子高齢社会の先進地域」となっている。また、一人当たりの老人保健医療費は<u>全国平均を上回るスピードで増加</u>しており、これら医療費の増加が財政を圧迫している。</p> <p>一方で、本村は少子高齢地域にあって<u>合計特殊出生率が依然として微増していること</u>や、何より<u>女性の寿命が日本一</u>であることが特徴としてあげられ、その背景の分析とこれらを活かしたまちづくりが求められる。</p> <p>以上の課題・特徴を踏まえ、<u>村民が健やかに生活し老いることができ、かつ、財政負担の軽減につながる『健康長寿のまちづくり計画』を策定</u>するため、以下の基本方針のもと必要な調査・検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 長寿実態調査により<u>女性の寿命日本一</u>となっている背景を探る(食・生活習慣、等)。</li> <li>● 医療費増加の原因究明と、“健康寿命”の<u>延伸</u>に向けた取り組みを検討する。</li> <li>● 村民・大学・事業者・各種団体・行政等の<u>多様な主体による、健康・長寿のまちづくり、生きがいつくり</u>につながる事業を検討する。</li> </ul> <p>次年度以降、計画に基づき取り組みを進めることで、<u>健康・長寿のまちづくりのモデルケースとして全国に発信</u>する。</p>	

平成 25 年度特定地域再生計画策定事業の内容説明書

【 テーマ： ①・イ 】

<p>1 事業（調査等）の名称</p>
<p>けんこうちようじゆ すいしんじぎよう ちようじゆにほんいち しあわ しすうにほんいち むら めざ 健康長寿のまちづくり推進事業 ～長寿日本一で 幸せ指数日本一の村を目指して～</p>
<p>2 事業主体の名称</p>
<p>おきなわけんきたなかぐすくそん 沖縄県北中城村</p>
<p>3 地域の課題等</p>
<p><b>(1) 人口や社会経済の状況</b></p> <p><b>女性の平均寿命は日本一で合計特殊出生率が増加</b></p> <p>本村は、<u>女性の平均寿命が日本一</u>（平成 22 年）として知られる村である。人口は、ここ 10 年程ほぼ横ばいで推移しており、15,951 人（平成 22 年国勢調査）となっている。合計特殊出生率については、約 1.9 人で全国の動向に反して微増している。沖縄県内においても、<u>合計特殊出生率が高い方</u>である。</p>  <p><b>少子高齢化が進んでおり、後期高齢者の割合が高い”少子高齢社会の先進地”である</b></p> <p>一方、<u>高齢化率は 20.2%</u>（平成 22 年国勢調査）となっており、高齢化率の低い沖縄県（17.4%）にあって、<u>県平均を大きく上回る値</u>となっている。また、女性の平均寿命が日本一であることに基因してか、<u>後期高齢者の割合が多く、前期高齢者の数を上回っている</u>、いわば“<u>少子高齢社会の先進地域</u>”である。</p>  <p><b>(2) 地域課題</b></p> <p><b>老人医療費が増加し、村の財政を圧迫している</b></p> <p>後期高齢者の割合が高いために、必然的に<u>老人医療費が増加</u>しており、<u>全国平均を下回る低水準だったものが、ここ 10 年で約 1.4 倍まで急増し、村の財政を圧迫</u>している。</p> <p>少子高齢社会において真に求められるのは、単なる平均寿命の長さだけではなく、<u>健康寿命</u>（健康状態で生活することが期待される期間）が長く、<u>村民が健やかに老いることができる環境</u>である。これからの高齢社会においては、<u>健康寿命を延長し、平均寿命とのギャップを解消</u>していくことが、<u>老人医療費の低下につながる</u>のもであると認識している。</p> 

### (3) 地域資源

#### 村民：健康長寿に取り組む土壌が育っている

女性の長寿日本一の北中城村では、「ミス（美寿）きたなかぐすく」を選出し、健康長寿親善大使としてPR活動や交流を行っている。また、男性においても「花咲爺会」という55歳以上の有志によるボランティア活動が行われており、健康のまちづくりを進めるための土壌（＝村民）が育っているといえる。



#### 都市基盤：健康づくりに活用できる、基盤が整備されつつある

世界遺産「中城城跡」を有する北中城村では、中城城跡を中心とした歴史文化散策路ネットワークの整備を進めている。これらについては、観光客だけでなく村民も利用する施設として、散策路を活用し、「歩く」ことをきっかけとした健康づくりへの取り組みの可能性を秘めている。

#### 食：食による健康づくりに取り組む素材がある

健康寿命を延伸するためには、良い食生活を実践することが不可欠であると認識している。村内には観光客のみならず村民にも人気の“カフェ”があり、村民の（特にお年寄りの）コミュニケーションの場となっている。また“給食センター”において地元の野菜や魚を積極的に活用して調理を行っており、健康とかかわりの深い「食」に関する施設が多く存在する。



#### 民の活力：健康長寿の視点での新たなまちづくりの展開が可能

米軍のアワセゴルフ場跡地における病院立地、大型スーパーやアリーナの建設等「未来型地域づくり」が展開されつつある。これら新規に供給される民間施設と連携による健康づくりの可能性が考えられる。



#### 広域連携：村内に留まらず、周辺市町村の資源を活用した取り組みが可能

高速道路により南北がつながるインフラの利便性を活かし、宜野座村のタラソの海洋深層水プールの活用など、村単体ではできない取り組みについても、近隣自治体の各種資源の活用が容易な環境にあるといえる。

4 調査の作業フロー
<b>1. 長寿実態調査 ～ 長寿日本一の謎を紐解く！ ～</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調査内容の検討、確定</li> <li>● 調査対象者の選定（※後期高齢者を対象に、アンケート及び聞き取り調査を予定）</li> <li>● 調査票の作成（※主に長寿の秘訣、食生活、生活習慣等について把握）</li> <li>● 調査結果の集計</li> </ul>
<b>2. 医療費増加の要因分析 ～ 医療費増加の原因は何か？ ～</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● レセプトデータ等の分析（長寿実態調査結果との関連性分析）</li> </ul>
<b>3. 健康長寿のための取り組みの検討 ～ 次年度以降の取り組みの方向性を ～</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実態調査による健康長寿の要因分析、課題の整理</li> <li>● 先進事例の調査</li> <li>● 健康寿命の延伸にふさわしい取り組みの検討</li> </ul>
<b>4. 多様な主体との連携の検討 ～ 次年度以降の取り組み体制を構築 ～</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 村内組織の検討（庁内体制の構築）</li> <li>● 連携事業者との調整（民間を含む取り組み体制の構築）</li> </ul>
5 事業（調査等）の基本方針
<b>1. 長寿実態調査により女性の寿命日本一となっている背景を探る</b>
<p>北中城村は女性の平均寿命日本一となっているが、<u>健康長寿で暮らすためのポイントや重視すべき点の把握、課題の整理</u>等を目的として、「長寿実態調査」を行う。具体的には、村民の食や生活習慣等を把握し、<u>寿命日本一に至った背景を分析</u>する。</p> <p>また、<u>平均寿命が高いということは、全国に先駆けて高齢化が進んだ</u>ということであり、<u>少子高齢社会の先進地域</u>（＝北中城村）における実態調査を行うことで、全国他自治体で今後起こると予想される問題・課題の整理を試みる。</p>
<b>2. 医療費増加の原因究明と、“健康寿命”の延伸に向けた取り組みの検討する</b>
<p>単に長生きするのではなく、健康で健やかに老いるためには、<u>健康寿命の延伸が重要</u>となる。そのため、現在の<u>老人医療費の増加の原因を把握・分析し、原因を究明</u>する。</p> <p>また、それまでの調査結果に基づき、<u>健康長寿の実現に向けた取り組み方の検討</u>を行う。特に、沖縄県全体の抱える課題として、肥満、野菜摂取不足、朝食を食べないなどの問題が挙げられていることから、健康維持のために、ウォーキングや水泳などの運動、食事に的を絞って、<u>計画の中で次年度以降に実施する取り組みの検討を進める</u>。</p>
<b>3. 村民・大学・事業者・各種団体・行政等の多様な主体による、健康・長寿のまちづくり、生きがいつくりにつながる事業の検討する</b>
<p>健康をきっかけとして実施するまちづくり活動は、医療費の減少だけでなく、<u>生きがいつくりや外出機会の増加など、地域活力の向上</u>にもつながる。その際、特定の高齢者だけでなく、<u>地域全体として健康意識を高め、その多様なニーズに応える受け皿を用意</u>するため、<u>各種団体と連携して事業を推進</u>する必要がある。</p> <p>特に、高齢者のコミュニティ形成における課題の一つとして、居場所の占有が挙げら</p>

れており、例えばコミュニティカフェのような取り組みは全国各地で行われているものの、参加するメンバーが固定化されていき、地域コミュニティの活性化という活動の意図通りに働かないことが多い。

そのため、大学・事業者・NPO 等各種団体・行政等の多様な主体の連携により、健康づくり活動のための多様な場の創出や、ソフト面からの支援などを用意することで、地域全体を、広く多角的にカバーすることが可能な事業へとつなげていく。

## 6 体制

### ① プレ村民会議（次年度からの「村民会議」開催に向けたプレ組織）

- 村民を中心に、その他村内で活動する各種団体等により構成する「村民会議」を組織し、健康長寿の地域づくりのあり方について議論する。（外部アドバイザーとして、大学教授などの有識者も構成員とする）

### ② 計画策定事務局

- 事務局を北中城村「健康保険課」に置き、情報収集・実態調査、計画の内容検討等、計画原案を作成する。

### ③ 調査補助機関

- 計画策定に係る一連の調査業務の補助をコンサルタントに委託する。

## 7 事業（調査等）の内容

### （1）**長寿実態調査** . . . 【事業時期：9～11月頃を予定】

#### ～長寿日本一となっている背景を探る～

#### ● 長寿に関する各種データの整理

長寿の実態に係る介護人口や疾患、生活環境に関するデータ収集・整理を全国比較を含めて行い、北中城村の実態を把握し、課題・問題点を抽出すると同時に、事業の効果を図る成果指標の検討も実施する。

#### ● 村民アンケート

データからでは把握が難しい生活習慣や食事、運動の習慣、地域との交流頻度、今後の居留意向等について、後期高齢者を対象にした訪問アンケート等を実施する。

#### ● 医療・福祉・介護関係者等へのヒアリング

本村で多い疾患やその原因、高齢期の福祉・介護の現状の課題や問題点等について、関係者へのヒアリング等を実施する。

#### ● 村民ワークショップ「私の『長寿の秘訣』」

アンケートやヒアリングだけでなく、ワークショップ形式で『長寿の秘訣』について村民を集めて議論する場を設けることで、普段意識していなかった健康への意識を抽出するだけでなく、同時に、健康長寿への取り組みの意識啓発・高揚を図る。

#### ● 医療費増加の要因分析

レセプトデータ等の分析により、医療費増加の原因を解明、各種上記長寿実態調査結果との関連性についても分析する。

## (2) 健康長寿に向けた取組みの検討 . . . 【事業時期：11～12月頃を予定】

### ● 取組みのアイデアの抽出

実態調査により把握した本村の問題・課題に加えて、先行事例の調査を行い、取組みの方向性やアイデアを検討する。

### ① 「歩く」「運動」に関する長寿に向けた取組みの検討

#### ▶ 試行事業「歩き方指導・ウォーキング大会」

沖縄県においては肥満等が問題となっていることもあり、「歩く」ことは健康づくりのために最も身近でかつ有効な方法であると考えられる。

専門家を招いての歩き方指導教室を開催し、「歩く」ことの重要性を直接教導するだけでなく、ウォーキング大会等のイベントにより、村民が気軽にウォーキングに参加できるような、複数のきっかけづくりのためのアプローチを検討する。

#### ▶ 試行事業「トレーニング講習会・スポーツ大会」

「歩く」ことは、体力づくりのためには役立つが、健康長寿のためにはそれだけでは不十分である。特に、高齢者の転倒防止に係るバランス感覚については、歩行だけでは筋力が身に付かず、「歩く」と併せて、水泳等をはじめとする運動・トレーニングを実施する必要がある。

そのため、トレーニング講習会のように、これから運動を始めようとする人を対象に、適切な運動量や運動方法などの講習を実施するとともに、スポーツ大会など、気軽に参加できる楽しいイベントを開催することで、村民の健康意識啓発を検討する。



(取組みイメージ)

### ② 「食」に関する長寿に向けた取組みの検討

#### ▶ 試行事業「食生活改善教室・特産品試食会」

沖縄県において野菜の摂取不足肥満等が問題となっていることから、本村においても食生活が健康と大きくかかわっていると予想される。

そこで、食生活指導のための講習会や、地域の特産品を利用したヘルシーメニュー等の試食会を開き、食事による健康意識の啓発と地域産業の振興等について検討する。



(取組みイメージ)

## (3) 連携先との調整 . . . 【事業時期：12～2月頃を予定】

### ● 中城城跡・大城地区 歴史文化散策路ネットワークの整備への健康長寿の視点を反映

中城城跡を中心に歴史文化散策路ネットワークの整備を行う予定であることから、この散策路を利用したウォーキングマップの作成等、観光客の散策のためだけでなく、村民の健康・地域づくりにも活用できるよう、中城城跡と連携を図る。

● **アワセゴルフ場跡地の病院の移転に伴う連携強化**

アワセゴルフ場跡地に徳洲会病院が移転することから、(2)における各種講習会等の講師として、また、「運動」「食事」のモニタリング、適正なアドバイス等、健康づくりのための活動への連携を検討する。



(ゴルフ場跡地再開発)

● **アワセゴルフ場跡地のアリーナの整備への健康長寿の視点を反映**

新設されるアリーナを、村民活動の場として活用できるように、事業者との連携を図る。



(宜野座タラソ)

● **宜野座タラソの海洋深層水プールの活用**

運動に関して、宜野座タラソ(宜野座村)と連携(広域連携)し、海洋深層水プールを利用した水泳教室等の取り組みを検討する。

● **村内農家、給食センター、村内カフェ、イオンモール等との連携**

食に関して、村内農家や給食センター等の技術を活用し、例えば特産品を活用したヘルシーメニューの開発等に取り組む。それを村内の人気カフェやイオンモールに売り出すなど、村の産業振興につながる検討を行う。

**(4) 長寿のまちづくり計画案の作成** . . . 【事業時期：1~3月頃を予定】

上記を踏まえ、次年度以降の詳細な取り組みを定めた『健康長寿のまちづくり計画』を策定する。

※ (1) ~ (4) の各事業については、「村民会議」を中心に検討を進める。



8 評価項目に対する内容	
8-1 国策への寄与	<p>&lt;健康長寿により、医療費・介護費の削減につなげる&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>健康長寿の取り組みにより、医療費・介護費の削減等の直接的な効果を期待できるだけでなく、各種団体と連携して事業を推進することで、地域コミュニティ・地域活力の向上、産業や観光等の振興にもつながり、健康をきっかけとして、自立できる少子高齢社会の実現に貢献すると考えられる。</u></li> </ul>
8-2 取組の先駆性・モデル性	<p>&lt;長寿日本一の秘訣を紐解き、全国に発信（本村でしかできない!）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 平均寿命日本一の地域であるため、<u>実際に健康で元気に暮らしている村民を対象とした調査を実施できる点。</u></li> <li>● 今後の高齢化を見据えた対策ではなく、<u>現に高齢化が進んだ地域（後期高齢者は多い地域）</u>において、これまでに検討された方策等も含めて、その有効性を検証することができる点。</li> <li>● 多様な活動の場、支援方策を用意することで、地域全体として健康意識を高め、各種団体と連携して事業を推進する点</li> </ul>
8-3 多様な主体	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各種団体と連携して事業を推進し、多様なコンテンツを用意することで、<u>特定の高齢者だけではなく、地域全体として健康意識を高め、その多様なニーズに応える受け皿を用意することができる。</u></li> <li>● <u>病院との連携</u>により、専門家による講習、継続的な助言等を期待できる</li> <li>● <u>基地跡地のまちづくりや宜野座リゾート事業者との連携により、運動や活動の場の創出を期待できる。</u></li> <li>● <u>農家や村内カフェ、イオンモールとの連携</u>による特産品を使った健康商品開発、販売等を期待できる。</li> <li>● <u>大学との連携</u>により、直接村民への支援、事業の効果検証等を期待できる。</li> </ul>
8-4 熟度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「<u>いきいき健康村づくり</u>」は村の三本柱のひとつに挙げられており、長寿日本一の村として、村民の意識も高まりつつある。</li> <li>● 健康長寿親善大使「<u>ミスきたなかぐすく</u>」や「<u>花坂爺会</u>」等のシニアボランティア団体等、<u>健康長寿のまちづくりを進めるための土壌</u>が育ちつつある。</li> <li>● そして何より、<u>基地跡地のまちづくりなど、村が大きく動き出すこの時期に、健康長寿の視点で、ハード整備・ソフトの取り組みによるまちづくりを行うことの意味は大きい。</u></li> </ul>
8-5 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 健康長寿により、幸せ指数日本一を目指す。</li> </ul>
9 活用する規制の特例措置の内容	
(現時点で該当するものはないが、事業者との連携等、具体的な計画が明確になった段階において生じる可能はある。)	



10 スケジュール							
項目	年月	平成 25 年度					
	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
(1) 長寿実態調査		■					
(2) 健康長寿に向けた取組みの検討			■				
(3) 連携先との調整				■			
(4) 計画策定					■		
11 事業費（調査費）の内訳							
経費の区分		内訳					
報償費		■					
旅費（先進地視察）		■					
需用費		■					
役務費		■					
委託料		■					
		■					
		■					
		■					
		■					
		■					
		■					
		■					
		■					
		■					
		■					
		■					
		■					
		■					
使用料及び賃借料		■					
その他の経費		■					
	経費計					7, 3 6 8	千円
	要望国費					7, 3 6 8	千円
12 その他							
—							